

巻頭言

新会長就任挨拶

「商習慣を変える」ことに チャレンジする



一般社団法人
日本医薬品卸売業連合会
会長

宮田浩美

本日の総会および理事会で新たに会長として選任されました宮田でございます。

まずは、長きにわたり卸連合会の発展のためにご尽力された鈴木前会長に心より御礼申し上げます。課題山積の中、過去からの取り組みを推し進めるに留まらず、コロナ禍でのIFPW東京総会を成功に導き、さらには「WE MOVE.」など将来に向けた新たな道筋をつけていただきました。そのご功績に心から敬意を表したいと思います。

業界環境の変化は激しく逆風が吹く中ではありますが、鈴木前会長をはじめ会員各位・関係者の皆様方のご協力を賜りながら、卸連合会のために精一杯力を尽くしてまいります。どうぞよろしく願いいたします。

さて、私たちを取り巻く環境は想定を上回るスピードで変化を続けており、卸経営は危機的な状況にあると認識しております。私はこのような時

だからこそ、その逆風を追い風に変えていくことができるのではないかと、業界全体を「変えるチャンス」なのではないかと思っております。

私たち医薬品卸売業界を変えるためには、各会員企業それぞれ自らが、変わることが重要であり、そのためには自らを律し、自らの規範にのっとり行動する「自律」と、自らが他者に依存せずに行動する「自立」、この2つの「じりつ」が必要ではないかと思っております。

長年にわたって変えることができなかった過去からの古い商習慣を変えることは容易なことではないと思いますが、各会員企業の皆様方と一緒に変わって変える勇気を持ちたいと思っております。そして、そのために最大限のサポートができる卸連合会を目指していきたいと考えております。

こうした変化の時代にあっても、私たちの使命は医薬品の安定供給を通じて、社会的使命を果たすとともに、さらなる医薬品流通の高度化・効率

化による社会的コストの低減やDX・GXの推進により、医療サプライチェーンの中で社会に貢献することです。

私たち医薬品卸はこれまで、平時であっても有事であっても、医薬品を途絶えさせることなく医療の一翼を担う者として国民の皆様の安心・安全な医療に貢献してまいりました。

コロナ禍においても医薬品の安定供給やワクチンの配送に対応するとともに、今もなお医療現場を悩ませておりますジェネリック医薬品の出荷調整に対する需給調整も担っております。

私たちの仕事は、人々の命や生活に携わる大変責任の重い仕事であり、緊急や有事の際には休日夜間を問わず努力をいとわず薬をお届けしております。過去の地震や風水害の際には、自らが被災しながらも避難所から出社し薬をお届けしていた医薬品卸の社員たちの姿がありましたが、その使命感は計り知れないものだと思っております。

まさしく今、卸連合会が存在する意義が問われていると思っております。卸連合会が果たす役割として、こうした私たち医薬品卸の姿をもっと世の中に知っていただきたい、そのためにきちんと業界内外に発信していきたいと考えております。政治の場や国や行政、国民の皆様にも医薬品卸が果たす機能や役割、現場の実態や課題も含め、この業界の「存在意義」を訴えご理解いただく、ひいては医薬品卸や卸連合会そのものの存在価値を認めてもらう、そのための活動をしっかりと行っていきたいと思っております。このことが私が新会長になってやるべき仕事であると考えております。

一方で大変重要なのは、足元の大きな問題への対応であります。まさに有識者検討会の報告が取りまとめられているところであり、それを踏まえて骨太方針にどのように描かれるか、薬価制度や流通の在り方がどのように変わっていくか、ということになりますが、それとあわせて2024年にはトリプル改定への対応、さらには働き方改革関連法による「働き方改革」や輸送ドライバー不足への対応も同時に行っていく必要があります。

「止まらない医療費抑制の流れ」に加え、物価高やベアなどの社会的要請による人件費の上昇、さらには南海トラフ地震などの自然災害を想定したBCP対策など経営コストの増加は避けられない状

況にあります。

このような中であっても、私たち医薬品卸は自助努力によって業界を守り、発展させていかなければなりません。

売上を上げれば利益が付いてくるという医薬品卸のビジネスモデルはもう過去の話であります。

私たち医薬品卸が健全に利益を上げて、再投資できないようであれば社会インフラとしての機能を持続できない可能性もあり、そのようなことになれば国民の皆様にも不利益を与えることになるのではないかと考えております。

従いまして、これから私たち医薬品卸はコストの適正化と同時に、果たす機能やコストに見合った利益を確保していく。そのために会員各社が2つの「自律・自立（じりつ）」によって、医療機関や保険薬局の皆様方にもご理解をいただきながら「経営姿勢の大転換」に舵を切る必要があるのではないかと考えております。

このように今、私たち医薬品卸は転換期を迎えておりますが、この業界を自らの手で守り国民の安心・安全に貢献するとともに、セルフケア領域においては市場拡大を図り、健康寿命の延伸にも貢献してまいりたいと思っております。

最後になりますが、今、卸連合会は大変疲弊しており協調しづらくなっている、なかなか共感しづらくなっているのも事実ではないかと思っております。

「共感しないと行動に移せない」、この言葉は私自らの信条でございます。会員企業の皆様方と一緒にいかに共感できるかということを考えながら、今こそ勇気を持ってコンプライアンスを遵守しつつ、みんなで「商習慣を変える」、このことにチャレンジしてまいりたい。そのことが私たち医薬品卸売業界が大きく変わっていける唯一の道筋だと思っております。

日本医薬品卸売業連合会に関わるすべての皆様のお力添えをいただきますよう、心よりお願いを申し上げます。どうぞ皆様よろしく願いいたします。

.....

*本稿は、令和5年5月25日に開催された当卸連合会の第11回通常総会における、宮田会長の就任挨拶に基づき作成したものです。